

報告

平成28年度

第47回全国学校保健・学校医大会

—北海道医師会が担当し44年ぶりに札幌市で開催—

常任理事・地域保健部長 後藤 聰



標記大会が昨年10月29日（土）に京王プラザホテル札幌において、「みんなで築こう子どもたちの未来—考えよう学校医の果たす役割—」をメインテーマに全国から学校保健関係者約560名が参加し、北海道では44年ぶりに開催された。

前々日の文部科学省が主催する全国学校保健・安全研究大会では、例年行われている文部科学大臣表彰で本道から学校医として恵庭市医師会の宮脇寛海元会長と旭川市医師会の福居久義会員が受賞された。お祝いを申し上げたい。

学校医大会は昨年度の愛媛大会で当会が担当することが決定して以来、本格的に準備委員会、実行委員会を開催するなどして準備を進め会場の確保、特別講演の講師への依頼等は2年前から着手してきたため、今年度は具体的なプログラムの編成と各分科会の座長の選定を中心に協議を行い、当日を迎えた。

大会当日は、10月下旬とはいえ例年より厳しい冷え込みとなり、道外からの参加者は北海道の一足早い初冬の寒さを体感されたことと思う。

午前中の分科会のうち「からだ・こころ」の3つの分科会はメイン会場である京王プラザホテル札幌で開催できたが、同ホテルにある会場では手狭になる可能性があったため耳鼻咽喉科、眼科各分科会は近隣にあるホテルポールスター札幌で行った。

今回は大会の担当であったため、特定の分科会には参加せず各分科会会場の様子を見て回ったが、分科会演題総数は48題を数え、どの会場も熱心な発言があり活発な質疑応答がなされていた。

◇

分科会終了後の都道府県医師会連絡会議では、次期担当都道府県医師会を決定しているが、文部科学省主催の学校保健・安全研究大会が今年11月16日・17日の両日、三重県津市で開催することとなっているため、本会議において次期大会は三重県医師会が担当することが正式に了承された。

三重県医師会の青木重孝会長は次期担当医師会長としての挨拶を求められ、11月18日に津市の三重県総合文化センターで「輝ける未来を築く子どもたちのために～今、学校医ができること～」をメインテーマで開催する予定であることを報告した。

◇

午後からは藤原副会長が本大会の開催を宣し、担当医師会として長瀬会長と主催者である横倉日本医師会会長が挨拶した。

続いて日本医師会会長表彰の表彰式が行われ、道内の学校医9名〔津田哲哉先生（小樽市）、石黒淳一先生（苫小牧市）、福井洋先生（帯広市）、細川忍先生（札幌市）、我妻浩治先生（石狩）、神部洋史先生（滝川市）、斉藤孝成先生（旭川市）、古屋聖児先生（北見）、吉田玄雄先生（函館市）〕、養護教諭9名、学校関係栄養士7名の計25名が受賞し、受賞者を代表して当会監事である前小樽市医師会長の津田哲哉先生が謝辞を述べた。



本表彰は、毎年開催地のブロック内に属する各医師会から推薦のあった学校医等が表彰されているが、北海道は単一ブロックのため、受賞者は44年間いなかったことから、日本医師会と協議し、各推薦枠を拡大していただいた。

その後、松野博一文部科学大臣（北原加奈子専門官代読）、高橋はるみ北海道知事、秋元克広札幌市長、横倉義武日本学校保健会長（弓倉整専務理事代読）、柴田達夫北海道教育委員会教育長からそれぞれ祝辞をいただいた。



引き続きの「学校における健康診断の意義と役割」をテーマとしたシンポジウムでは、最初に日本学校保健会の弓倉整専務理事から「学校健康診断をめぐる話題」と題し基調講演があった。平成14年に色覚検査を必須項目から削除したことの弊害などの問題もあり、今回の学校保健安全法施行規則の一部改正でその目的と役割はスクリーニングであることが明確化されたことなど、学校健康診断の歴史と変遷を振り返った。集団検診である以上はスクリーニングとしての制約はある程度やむを得ず、運動器検診を含めて運用面で対応していくべきではないかとの見解を示し、学校健診では受療勧奨後の受診の確認や主治医との連携の規定がないことを指摘した。

3人のシンポジストの発表では、最初に札幌市学校医協議会の小池明美会長から「成長曲線」について典型的な4例を示し、成長曲線は低身長や肥満の体格、神経性食思不振症などの精神疾患、思春期早発や甲状腺の内分泌疾患、ネグレクト、食べ物を与えられない、愛情が少ないなど生活環境まで分かることがあり、本人や保護者にも成長の様子が分かりやすいメリットがあることを解説した。一方で学校保健での成長曲線と臨床現場で小児科医が使用している指標が異なっていることから混乱を避けるため、札幌市学校医協議会がかかりつけ医の受診の基準を作成して平成30年度から対応することを紹介し、その概要を説明した。

「運動器学校検診の概要と課題」について発表した札幌医科大学附属病院長で整形外科の山下敏彦教授は、現代の子どもたちは運動を活発にする子と全く運動をしない子の二極化があり双方とも運動器疾患あるいは障害の原因となっていることを解説した。

現状では、一次検診は整形外科医の学校医が少なく運動器検診に不慣れな場合が多く、検診時間の制約から触診動作が必要な項目は未実施となり検診が不十分となっていることが懸念されるため、開業医のほか大学や勤務医等の組織的な協力が必要であることや二次検診で体の固い子どもが受診した時の対応として、運動療法・ストレッチ等の指導も重要となることを指摘した。

けがや障害では整骨院を勧める保護者もあり、勝利のためにはスポーツ障害が起こるのはやむを得ないといった旧態依然の考え方も依然として強く、日本学術会議でも健全な発育とは逆方向に行ってしまうことを危惧していることなど、一次検診体制の整備とともに父兄・スポーツ指導者への啓発、学校・医師会・行政・父兄との連携構築が課題であるとの見解を示した。

「学校医に必要なアレルギー疾患の知識－食物アレルギーを中心に－」について発表した北海道小児科医会の渡辺徹副会長は、学校医の職務として増加している食物アレルギー有病者とアナフィラキシー発症者対策が重要で健康診断と救急処置への対応が課題であり、利用率の低い「学校生活管理指導表」の活用の改善と、学校現場で緊急時には学校職員がエピペンを使用できる体制の構築が不可欠であると述べた。また、食べても大丈夫、運動しても大丈夫ではあるが、特定の食物を食べて運動した場合に起きる食物依存性運動誘発アナフィラキシーには十分注意が必要であることを強調した。



特別講演は、旭川市にある動物の習性を活かした「行動展示」で有名な旭山動物園の坂東元園長に「伝えるのは命 繋ぐのは命」をテーマをお願いした。



旭山動物園には「珍しい動物」はいないが、いかにして生き生きとして過ごしてもらえるかを動物たちの目線で考え、飼育係は感性・感覚と習性を掌握し、一定の距離感を保ち関係性を構築した上で個性

を理解して思いやりを持って取り組んできた事例を具体的に紹介した。

数年前に集団への依存性が強いフラミンゴが逃げ出し捕獲しようとした際に、動物園では見られなかった本質的にもっていた生きる力を感じたことやオランウータンのペアリングから出産・子育てに至るまでの様子をDVDで放映しながらユーモアを交え軽妙な語り口で説明した。

動物園という外敵から守られた空間から飛び出したフラミンゴが思いのほか遅く生き延びる姿を見て、安全が確保された場所が必ずしもプラスに作用しているわけではないと感じ、それは学校教育の中でも共通する面があるのではないかと述べた。

動物が持つそれぞれの個性を活かしながら繋ぐ命と必ず訪れる「死」を見つめ、さまざまな生き方に寄り添う坂東園長の講演を拝聴し、人と動物の違いはあるが、同じ命を預かる者として改めて命の尊さを考えさせられた。



次期担当医師会挨拶は、当日開催した都道府県医師会連絡会議で決定した三重県医師会の青木会長が行い、全国から多数の参加を呼び掛けた。



閉会は、小熊副会長が各演者、座長、来賓の方々へのお礼と日本医師会長表彰受賞者に対してお祝いの言葉を述べ挨拶とした。



その後の懇親会は、北海道産の食材を活かした料理や道産米を使用した日本酒、道産ワインなどを用意した。アトラクションは香澄「KAZUMI」をゲストに迎え江差追分などの歌声を披露するなど盛大に行われ、大会参加者を歓待し、交流を深めることができた。

最後に藤原副会長が閉会挨拶を行い、10月27日のプロ野球日本シリーズ第5戦で劇的なサヨナラ満塁本塁打を放った北海道日本ハムファイターズの西川遥輝選手のヒーローインタビューを真似て、来年は「みんなで三重に行くぞ！」と会場に呼びかけ盛會裏に終了した。



学校保健を巡っては、少子化で児童・生徒数が減少する状況にあるが、将来の日本を担う子どもたちが成長期の礎となる学校生活を充実して健やかに過ごせるよう、学校医をはじめ学校保健関係者がより身近でサポートすることが大切な役割であるので、今後とも学校保健活動の推進にご尽力いただきたい。

本大会の開催にあたり、ご指導をいただいた日本医師会役員をはじめ、全国各地から参加された先生方にお礼申し上げるとともに、第三分科会で三戸常任理事が発表した学校保健活動に関する当会のアンケートにご協力いただいた郡市医師会と会員各位に感謝申し上げ報告といたします。

平成28年度
第47回全国学校保健・学校医大会
The 47th Japan School Health and School Physician Annual consultation in Sapporo

メインテーマ
みんなで築こう子どもたちの未来
—考えよう学校医の果たす役割—

会期 平成28年10月29日(土) 会場 京王プラザホテル札幌
ホテルボールスター札幌
主催 日本医師会 担当 北海道医師会